

持病のある人や、小学3年生以下の子どもに対し、新型インフルエンザワクチン接種が行われている。大人なら1回接種で重症化を防ぐ効果があるとされる一方、感染そのものやインフルエンザ脳症の予防は、必ずしも期待できないという。なぜだろう。(今津博文)

国産ワクチンの製法は通常の季節性インフルエンザのワクチンと同じ。ウイルスを鶏の有精卵に植え付け、培養して増やしたウイルスを薬剤処理で壊し、ヘマグルチニン(HA)というウイルス表面のトゲ状のたんぱく質を抽出したものが主成分なので、接種しても感染しない。

接種後2〜3週間たつと、HAに反応してウイルスを攻撃するIgGという抗体が血液中に増えてくる。3週間後に採血し、血清を40倍に薄めてもIgGの動きを確認できれば、重症化を防ぐ効果があるとされる。成人2000人を対象にした臨床試験では、国産ワクチンの1回接種で78.6%の人が「効果あり」になった。

当初は大多数の人が新型に免疫を持たないため、2回接種が必要と考えられていた

新型インフル対策

が、臨床試験の結果、2回接種して「効果あり」となる人は77.6%で、1回接種と差がなかった。厚生労働省は11日、19歳以上への接種を原則1回とする方針を決めた。

猛烈な増殖

血液と共に全身を循環する

厚労省によると、今月9日までに推定約210万人が新型ワクチンの接種を受け、頭痛や発熱、じんましんなどの副作用が536人に出たと報告された。

血圧低下などを伴うアレルギー反応や急性肝障害など重篤

副作用 通常並み

と判断されたのは39人で、発生頻度は0.0019%。国立病院の医療従事者2万人を対象に行った追跡調査では5人、0.03%だった。昨年の季節性ワクチン(0.0003%)に比べると高いが、同省は「積極的な報告のため」と考えており、特に副作用が強いとはみていない。

脳症も心配

子どもで心配されるのがインフルエンザ脳症。季節性インフルエンザでは乳幼児が突然けいれんを起こして意識障害になり、年によるばらつきはあるが1〜3割が死亡する。新型では16歳で発症して死亡したケースもあるなど、年齢層がやや高い。感染初期に容体が急変し、治療が間に合わないケースもあるという。

ワクチン 過信は禁物



新型インフルエンザワクチンの接種を受ける幼児(さいたま市浦和区)

などの免疫細胞。粘膜ではウイルスが感染した細胞を丸ごと溶かして封じ込めるが、疲労などで抵抗力が落ちるとウイルス側が優勢になり発症する。予防には、やはり十分な睡眠や休息が欠かせない。

神谷齊・国立病院機構三重病院名誉院長は「新型インフルエンザワクチンで、脳症が予防できるわけではない」と指摘する。季節性インフルエンザワクチンを使った研究でも、脳症を防ぐ効果を示す明確なデータはない。

新型インフルワクチン

メーカー名	製造方法	賦活剤	防腐剤
(財)化学及血清療法研究所	鶏卵	無	2-フェノキシエタノール
(学)北里研究所	鶏卵	無	チメロサル
(財)阪大微生物病研究会	鶏卵	無	チメロサル
デンカ生研(株)	鶏卵	無	チメロサル
グラクソスミスクライン(株)	鶏卵	使用	チメロサル
ノバルティスファーマ(株)	イヌの培養細胞	使用	チメロサル



国産の新型インフルワクチン

ワクチンには、雑菌混入を防ぐため、エチル水銀系のチメロサルや、化粧品などに使われるフェノキシエタノールなどの防腐剤が添加されている。

エチル水銀は体外に排出されやすく、重大な健康被害はないとさ

妊婦用は「特製品」

れるが、胎児への影響はよくわかっていない。フェノキシエタノールは動物実験では胎児への影響はなかったが、妊婦への使用実績は不明。このため厚労省は、妊婦向けに、防腐剤を使わず、製造段階で使い捨て注射器に封入したワクチン100万人分の製造を進めている。

政府が輸入を検討している海外のワクチン2種類は、いずれも免疫反応を強める賦活剤を使用。グラクソ社は鶏卵、ノバルティス社はイヌの培養細胞を使って製造しており、現在、国内で臨床試験が行われている。

日本小児科学会新型インフルエンザ対策室長の森島恒雄・岡山大学教授は「ワクチンは完全でないが、ある程度発症者を減らしたり、新型ウイルスの重症患者に多いウイルス性肺炎を抑えたりする効果を期待できる。子どもはできるだけ早く接種を受けた方がいい。その上で油断せず、手洗いなどの予防策を続けてほしい」と話している。